

【大切な水をいつまでも】

君津市立周西南中学校 二年 森 大地

「うちは、お風呂だけで、毎日何リットルの水を使っているのだろう。」あるとき、ふと、こんな疑問を持ちました。中学生になってから、お風呂掃除することが日課になった私は、流れていく水を見て、しばらく考えていました。父に、わが家の浴槽は、何リットルの容量かを聞くと、二百五十リットルくらいではないかなと答えてくれました。やはりそれくらいはあるよなと、納得したような気持ちでした。全ての水が排水されるまでに、少し時間を要するからです。その他に、シャワーを使っているので、水の使用量はもっと多いはずです。浴槽の水は、お風呂掃除にも使っているけれど、毎回、少しもつたいないような気持ちがありました。

約二十二億人。これは、世界で、安全な水が飲めない人の数です。約二十二億人は、世界の人口の約四分の一にあたる数です。このことを知ったのは、私が小学五年のときでした。毎日の自学ノートの中で、SDGsのことを調べていたときに知り、小学生だった私は、強い衝撃を受けました。今、私の身の回りでは、水は蛇口をひねればすぐに出るし、スーパーやコンビニなどでも売っています。公園にも水道があります。このようなことが当たり前として育ってきた私には、安全な水を飲めない人がいることが、少し信じられないような、そんな気持ちでした。しかし、調べていくと色々なことがわかりました。

私より幼い子が、家族のために水を求めて、何キロも何キロも歩くということ。水くみは、主に女性と子供の仕事で、水くみには何時間も時間がかかるため、学校に通うことができないこと。しかし、ようやく手に入れた水は茶色で、寄生虫や病原菌に侵されていて、飲むと病気を引き起こしてしまうこと。病気だけでなく、命までも落とすかたがっていること。一日に約八百人のかたが水が理由で亡くなっているということ。

これらのことを知り、なぜSDGsの六番目に「安全な水とトイレを

世界中に」という項目があるのかがわかりました。世界中の人がまずこの現実を知ることが、この項目の達成の第一歩だと思います。茶色の水を飲んでいる子供の写真を見て、何も感じない人は、いないと思います。私たち人間が生きていくためには、安全な水は欠かすことができません。小学五年のこの自学から、私の置かれている環境は、当たり前ではないことを知りました。水を大切にしていかなくてはなりません。

この作文を書くにあたって、私の中で、我が家のお風呂の水について、再利用はできないかと、しばらく考えました。マンションに住んでいるので庭がありませんが、鉢植えの植物の水は、お風呂の水を使用することになりました。毎日数リットルの量ですが、継続したら、大きな節約になると思います。

二〇五〇年には、地球温暖化や人口の増加により、世界中の約五十億人が水不足に陥ると予想されています。安全な水が身の回りにあることが当たり前の今、水は無限ではなく、限りあるものだということを、改めて認識したいと思います。これから私たちは大人になります。水の大切さを次の世代に伝えていけるような大人になりたいと思います。一人一人の少しの気付きや努力で、未来が良い方になると私は信じます。